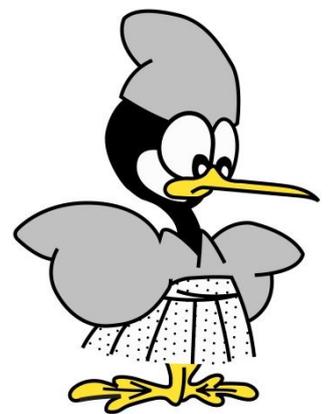


## 第5章 今後の課題



## 第5章 今後の課題

ここで、現状分析及び今後の事業環境の変化から、本市水道事業における今後の課題を抽出し、厚生労働省の「新水道ビジョン」における「安全」「強靱」「持続」の3つの観点から整理します。

### 観点①：安全な水道

#### 安全

1. 良好な水質の維持に努めていく必要があります。
2. 水質検査の精度の維持と、信頼性の確保に努めていく必要があります。
3. 水源地での水質汚染事故に備え、関係機関との連携体制の強化を図る必要があります。

### 観点②：強靱な水道

#### 強靱

1. 基幹施設として位置付けた水道施設については、優先的に耐震化を進めていく必要があります。
2. 地震時における生活用水等の応急給水量を確保すると共に、消防用水の供給及び二次災害の防止に努めていく必要があります。
3. 今後、老朽化した水道施設が増加するため、計画的な施設更新を行なっていく必要があります。
4. 水道施設の更新時には、将来の水需要減少を見据えた適正な施設規模とする必要があります。
5. 漏水事故を減少・防止するため、主に老朽化した塩化ビニル管の布設替えを計画的に行なっていく必要があります。
6. 地震、水質汚染事故、テロ等への備えを強化していく必要があります。
7. 適正な配水池容量の確保に努めていく必要があります。

### 観点③：水道サービスの持続

#### 持続

1. 良質で豊富な長良川の伏流水を最大限に活用した、水源地の統廃合を効率的に進めていく必要があります。
2. 使用電力の削減に努めていく必要があります。
3. ベテラン職員の持つ技術やノウハウを、若年層へ確実に継承させるための方策を検討していく必要があります。
4. 今後、水道施設の老朽化の進行に伴い、多額の更新費用が必要となることから、アセットマネジメント手法を用いた中長期的な更新需要と財政収支見通しについて、継続的に検討していく必要があります。
5. 水道普及率の向上に努めていくと共に、将来的な財源の確保についても検討していく必要があります。
6. 有収率向上のため、有効な方策を検討する必要があります。
7. お客様の更なる利便性の向上を図っていく必要があります。
8. 給水サービスの向上に向けて、情報収集を行っていく必要があります。